

チャレンジ レポート

③

あいら子育て情報配信事業

社会福祉法人
始良町社会福祉協議会
(鹿児島県始良郡始良町)

平成 19 年度「地方分モデル事業」
助成団体

DATA
〒 899-5432 鹿児島県始良郡始良町宮島町 13-9
TEL : 0995-65-7757/FAX : 0995-64-5440

始良町社会福祉協議会では、携帯電話を使った子育て情報配信サービスを行っています。事業のきっかけやその経緯、今後の展開などについてうかがいます。

はじめに

鹿児島空港からバスで約30分、薩摩半島と大隅半島の結末点に位置する、南北に細長い町が始良町です。桜島をいたたく鹿児島湾（錦江湾）の湾奥に位置し、南にきらめく海、北に緑豊かな山々をもつ自然に恵まれた町です。

鹿児島市からも車で約25分と交通の便がよく、いわゆるベッドタウンとして、人口数、世帯数とも増加しています。鹿児島県内町村で最も人口の多いのが始良町で、また、子育て世帯ばかりでなく、公務員の退職者が多く移り住んでくるのも特徴です。

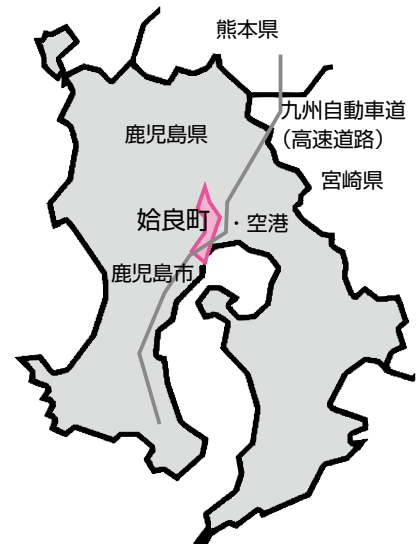
子育てサポート情報配信サービス

始良町社会福祉協議会では、2008（平成20）年2月から、携帯電話を使った子育てサポート情報配信サービスを開始しました。配信される情報は、①子育て支援、②防災・防犯、③ボランティア活動センター、④催し・イベント、⑤社会福祉協議会にかかわるものです。さらに、それぞれは次ページの図1のように分類されています。メールでその都度、情報の概略が送られ、詳細や関連情報は携帯用のホームページで閲覧します。SSL（インターネットで情報を暗号化して送受信するための通信手順）を導入しており、利用者の情報管理には注意を払っています（28ページ図2参照）。

このサービスを利用するには、登録会員になることが必要（登録料・サービス料は無料）ですが、出



配信サービスを利用しているお母さん方



産予定のある人、保護者、保育施設職員、PTA関係者等子育て情報などが必要な人なら誰でも登録することができず。登録にあつては、「地域」、「受け取りたい情報（メールマガジン）」、「子どもの生年月日または出産予定日」を入力します（29ページ図3参照）。そのため、たとえば地域や子どもの年齢に応じた情報を受け取ることができるなど、事前に自分に必要な情報をピックアップできるようにしていて、要らないメールが送られてくるといったわずらわしさはありません。利用者の意見を伺つても、「気軽に利用できる」、「情報を見逃した、紙媒体だとありがちな情報をなくしたなどがない」など大変好評です。例えば、休日に外出先で子どもが熱を出したときには、外出先の休日在宅医を探すことができ、とても助かったというコメントもありました。



きっかけは「子育てサロン」、そして「ゆりかご」

さて、このような情報配信サービスですが、そのきっかけとはどのようなものだったのでしょうか。始良町社会福祉協議会・総務課長の折田浩二さんにお話を伺いました。

「そもそもこのきっかけは2003（平成15）年に開始した『子育てサロン』にあります」という折田課長。子育て世帯の転入が多く、子どもをもつ母親が孤独感を抱えているなど子育てをめぐる課題については当時、すでに顕在化していました。

「子育てサロン」がはじまった頃、ある利用者の方に、「転動してきたばかりで周囲に相談できる友達も

図1 配信される情報

| ①子育て支援 | ②防災・防犯 | ③ボランティア活動センター | ④催し・イベント | ⑤社会福祉協議会 |
|---------------|--------------|-----------------|-------------|---------------|
| ○子育て支援・育児サークル | ○消防署・警察署 | ○ボランティア活動センターとは | ○催し・講座 | ○社会福祉協議会とは |
| ○催し・講座・教室 | ○不審者情報 | ○ボランティアとは | ○スポーツの催し | ○社会福祉協議会の主な事業 |
| ○子どもの救急時の対処方法 | ○非常時持ち出し品・備品 | ○ボランティアをしてみませんか | ○町内の今月の相談日程 | ○日本赤十字社 |
| ○休日在宅医 | ○避難所 | ○ボランティア講座の案内 | ○各種相談機関 | ○赤い羽根共同募金 |
| ○子育て相談窓口 | ○防災ボランティア | ○ボランティア活動助成の案内 | ○町内の募集 | |
| ○児童・障害児福祉施設 | | ○ボランティア保険 | | |
| ○町の健診日 | | | | |

いないんです。「子育てサロン」に登録してもいいですか」と利用者の言葉が印象に残っています」と折田課長は言います。これは始良町に限ったことではなく、鹿児島県全域で同じような状況にあるそうです。「鹿児島県内都市部、地方部に限らず子育てに悩みを抱えて同じようなニーズがあります」とは同席いただいた鹿児島県社会福祉協議会地域福祉部の副部長さんの言葉です。「ゆりかごから募場まで」という言葉がありますが、もともと、「募守サービス」を手がける始良町社会福祉協議会にとって、子育て支援を充実させたいという思いがあったと言います。このようなことから、まず「子育てサロン」の立ち上げにつながりました。



「子育てサロン」から携帯電話メールへ

当初、月1回20人程度の参加者ではじまった「子育てサロン」について、その「子育てサロン」をどのようにして知ったのかというきっかけを参加者に尋ねたところ、「新聞やまちだよりを通じて」と回答した人はいなかったと言います。子どもの健診で配布されたチラシをみてという人がほとんどでした。新聞を読まない、自治会にも入らないという子育て世代に対して、ではどのような情報発信の方法があるのか、と考えたときに思いついたのがこの方法だったそうです。

もともと、当初考えていたのは、パソコンを使つたメール配信だったそうですが、どうしても自身のなかで具体的なイメージが固まってこなかったとい

います。そこで、すでに同様のサービスを提供していた広島県の「財団法人ひろしまこども夢財団」を視察するなどして、自身で消化していきイメージをつくり上げていきました。その過程で、パソコンから携帯電話を利用した情報配信へと切り替えました。「見積段階から具体的な仕様書ができ上がっており、後は細部を詰めるだけでした。そのため、タイトなスケジュールでもシステムをつくり上げることができました」とは、このシステム開発を担当された会社の担当者の言葉です。

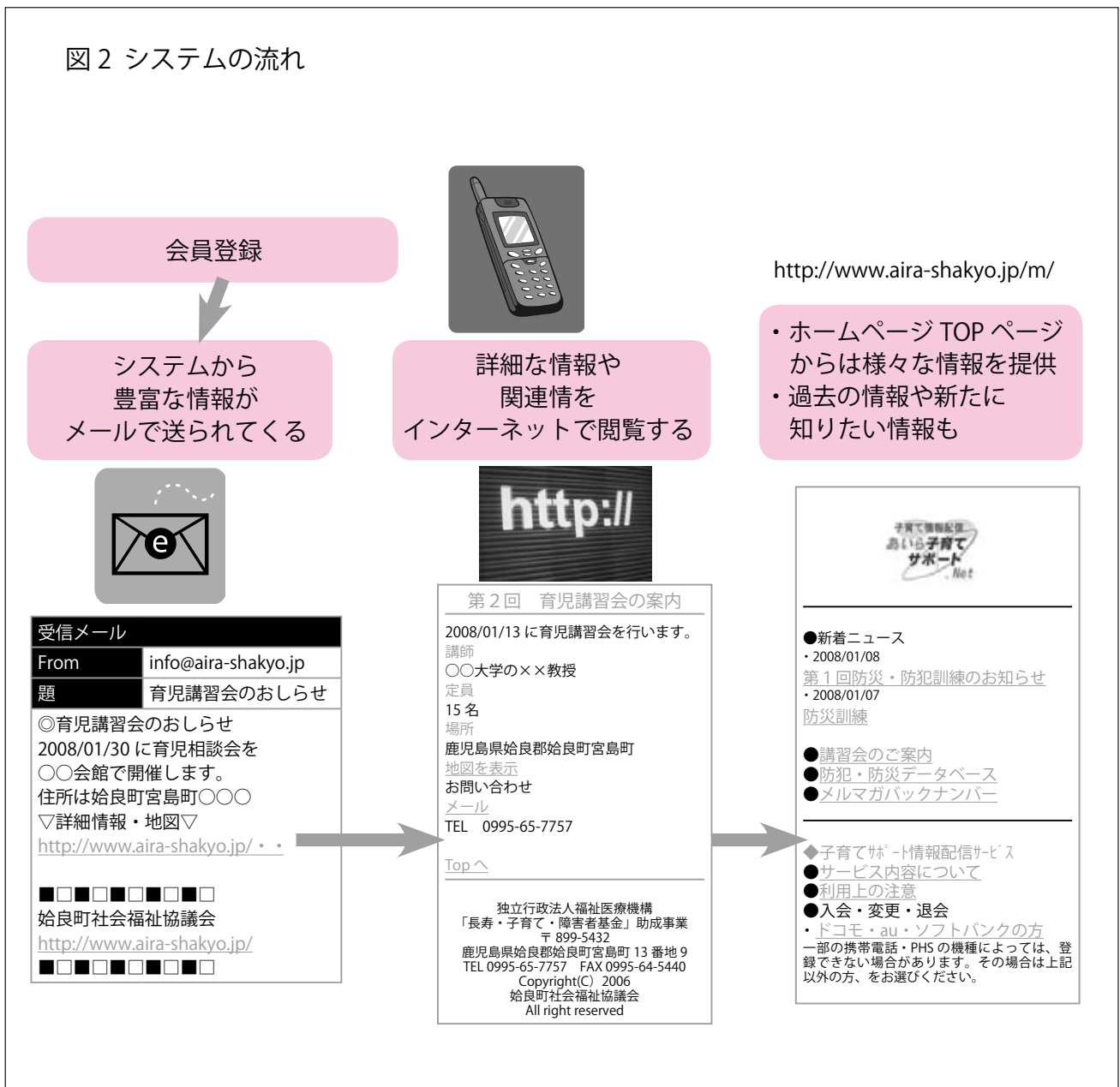
なお、事業の実施にあたっては、子育て中の利用者や保育士、民生委員、児童委員、小学校・中学校教員、始良町役場の福祉・児童係などから構成される12名の運営委員会を立ち上げました。

本格的に子育てサポート情報配信サービスが開始されたのは2008（平成20）年の2月から。会員は314人です（2009（平成21）年5月1日現在）。「子育てサロン」に参加して、健診時のチラシをみて、口コミでという人がほとんどといいます。配信される情報は、始良町役場、鹿児島県、鹿児島県警察などから入手します。

始良町には、登録者が利用するとランチが50円引きになる喫茶店が2軒あります。これは、折田課長が直接交渉されたそうです。システム開発の経緯と併せて、折田課長の熱意と入念な準備をされた様子がわかります。

課題は、提供する情報の選別と、利用者の情報も含めた情報の管理、その入力とホームページの更新です。現在のところ、事務局でこの事業に携わっているのは3名です。さらに、ボランティア1人に入力を手伝ってもらっているそうです。鮮度の高い

図2 システムの流れ





ちに、いかに必要な情報を発信できるか、事業の継続性と拡大を見据えた体制づくりが大切になってきます。

今後は、たとえばある小学校の情報を保護者などの関係者だけに配信するといったきめ細かい情報配信や、障害児・者にかかるイベントの開催や障害者用トイレの設置場所など情報などについて充実させていきたいといえます。

地域福祉を補完する

いわゆる地域の「きずな」やつながりが希薄になっていくといわれている現在において、「地域社会」の意味や必要性を考えることは大切な課題です。しかし、それを以前のままに取り戻そうとするだけでは、むしろさまざまな軋轢を生み出しかねません。子ども、母親、父親、家族を取り巻くさまざまな社会環境が従来とは変化しているなかでは、むしろ新しい方法によって、それらをつくり出すことが必要なのでしょう。始良町社会福祉協議会がすすめる「子育てサポート情報配信サービス」は、その地域福祉を補完する手段となるかもしれません。

図3 会員登録の流れ

